オーケストラ、チェロの視点から

函館市医師会
アイビー函館クリニック
波多野（はたの）　治（おさむ）

一流のオーケストラともなれば各楽器のテンポも絶妙で、ここぞというフォルテシモもビシッと決まりなんとも気持ちの良いものです。このテンポやタイミング、実は指揮者ではなくコンサートマスター・コンサートミストレス（以下コンマス）がとっていることはご存知でしょうか。指揮者はタイミング以外の音楽的な表情とか楽団員のモチベーションなど、多くのことを引き出すのがメインであり、大事なことはリハーサルでほぼ終わらせゲネプロで最終確認をしています。タイミングというのは音楽の一つの要素であって指揮者の１番の仕事ではないようです。

ではそのテンポやタイミングをとっているのは前述の通りコンマスですが、最初に弦を弾き出しているのはコンマスではなく実はチェロやコントラバスの低弦です。コンマスの合図で低弦が先に弾き出します。低弦は発音が悪いため先に弾き出さないと聴衆にはヴァイオリンより遅れて聴こえてしまうためです。太い弦はどうしても弓を引き始めた時の最初の音がぼやけ、はっきりした音が遅れて出ます。これを発音が悪いと言います。音の立ち上がりが悪いということです。その分先に弾き出さないといけないのです。主旋律を主に弾く第１ヴァイオリンが一番忙しそうですがチェロの方がある意味忙しいとも言えます。さらに言えばより低弦のコントラバスがオーケストラを引っ張っていると言っても良いのです。それはトリオやカルテットなどの室内楽にも当てはまります。超一流のチェリストは発音が良いのですが、そうであっても物理的にどうしてもヴァイオリニストよりも発音が悪くなります。プロの弦楽器奏者に囲まれてアマチュア奏者が演奏すると周りの音が先に聴こえてしまいます。フライングしているのではなく周りのプロ奏者の発音が良いからです。

従って聴衆に同じテンポやタイミングで違和感なく聴こえてくるオーケストラの音は、実は最初にコントラバス、次にチェロ、最後にヴィオラ、ヴァイオリンの順にほんのわずかではありますが常タイミングをずらして弾いています。各楽器が同時に弓を引き始めるとアマチュアオーケストラのようにぼやけた締まらない音になってしまいます。

協奏曲のソリストはルバートと言ってオーケストラ伴奏とわざとテンポをずらすこともします。演歌などでよく見かけますが、ただしその曲を理解し洗練されたルバートでないと悪目立ちし聴き苦しくなります。チェロ協奏曲のソリストはルバートを用いつつ基本的にはオーケストラより一瞬先に弓を引いています。

余談ですがチェロはお金のかかる楽器です。理由は飛行機で移動する際にチェロで１席分用意するからです。ヴァイオリンなどは手荷物で客室に持ち込めますが、チェロは人と同じ扱いになります。チェロは空輸専用ケースがなく貨物室に預けるのは気圧や湿度・温度の急激な変化で破損する可能性が高く、やむを得ず貨物室に預ける時はチェロケースを発泡スチロールで何重にも養生しワンちゃんと一緒のペットスペースに預けますが勇気のいることです。しかもチェロは人ではないためパスポートは無くネット予約が出来ず航空会社と直接やり取りをします。チェロの持ち込みができない航空便も多数あるため、渡欧する際に直行便がない時は二つの航空会社と同時にやり取りをして乗り継ぎのタイミングを図るのに一苦労です。座席も例えば窓際３列シートであれば窓際がチェロ、隣にチェリスト、通路側に他のお客様が座る規則があり、窓外の景色を十分に楽しむことは永遠にありません。緊急避難時にチェロは邪魔者扱いなので通路側の席には置けないことが理由です。空席が少ない時は座席の確保が大変です。音楽事務所と契約する身分にでもなれば解放されますが、いずれにせよピアニストが経験しない苦労です。コントラバスは空輸専用ケースがあり貨物室に預けますが、客室内に持ち込む場合は４席分用意するそうです。

余談はさておき、ご存知の先生方には退屈な話でしたが、初耳の方でしたらそんなことも意識しながらライブ演奏をご覧になるのも一興かもしれません。

2022伊Cervo夏の夜
リハーサル室からの地中海の眺め